

ADVANCE OF Z OFFICIAL ART BOOK Vol.0

『アドバンス・オブ・Z』設定資料集

ADVANCE OF Z STAFF

原作：富野由悠季・矢立肇
ストーリー：寺野 敏
メカデザイン：藤原謙
キャラクターデザイン：鶴巻和郎
マーキングデザイン：関根謙弘・ベッパ・ジョシュア
監製協力：月岡大樹
企画：電撃ホビーマガジン編集部
企画協力：設定：サンライズ
©新通エージェンシー・サンライズ



ADVANCE OF
ディターンズの旗のもとに

CONTENTS

コラム ディターンズの誕生	—
SPACE MAP, WORLD MAP	—
宇宙世紀年表	—
RX-121 ガンダムTR-1 (ヘイズル)	—
RX-121 ガンダムTR-1 (ヘイズル)フルアーマー形態	—
RX-121 ガンダムTR-1 (ヘイズル)機體動作相	—
RGM-79CR ジム改高機動型, RGM-79SR ジム スナイパー型	—
RGM-79CR ジム・バリエーション	—
YRMS-106 バイザック先行量産型	—
YRMS-106-BL-B5X バイザックTR-2 (ビグワグ)	—
コラム 301コンチ案件	—
NRX-044(仮) 試作アッシマー-TR-3 (キハール)MS形態	—
NRX-044(仮) 試作アッシマー-TR-3 (キハール)MA形態	—
NRX-044 試作アッシマー-TR-3 (キハール)重力下仕様 MA形態	—
NRX-044 試作アッシマー-TR-3 (キハール)重力下仕様 MS形態	—
MS-08F ザク-シットウツァー	—
MS-08R リック・ドム・シットウツァー	—
MS-14 ザルグザク-シットウツァー	—
コラム ヘイズル大鑑	—
RX-121-1 ガンダムTR-1 (ヘイズル改)	—
RX-121-1 ガンダムTR-1 (ヘイズル改) サブ・アーム・ユニット装備	—
RX-121-2 ガンダムTR-1 (ヘイズル改)機	—
RX-107 TR-4 (ダンディライアン) 太刀橋英入形態	—
RX-107 TR-4 (ダンディライアン) MA形態	—
RX-107 TR-4 (ダンディライアン) MS形態	—
RX-107	40
RMS-117 ガルバ/ウルティ	—
ORX-005 キャプテンTR-5 (ファイバー)	—
ディターンズの艦船	—
キャラクター	—
コラム グリプス戦役	—
A.O.Z用語集	—

ティターンズの誕生

一年戦争終結後も各地に層々ジオン軍残党など地球圏の潜在的脅威は依然として存在しており、0083年の「デラース戦争」によりその不安は現実のものとなる。そんな運送を促める地球圏においてティターンズは結成された。



バスク・オム

階級：大佐

ジャミトフの熱心でティターンズ実働部隊の総指揮官。その思想は「地球至上主義」に凝り固まっており、スペースノイドに憎悪すら感じている。目的のためには手段を選ばない冷徹な性格で、30バンチ事件の指揮をとったのもバスクであった。



ジャミトフ・ハイマン

階級：大将

ティターンズの創始者であり総帥。「地球至上主義」を唱え、ジオン軍残党狩りと地球圏の治安維持に名を借りたスペースノイド弾圧のためティターンズを結成した。ハマーン・カーンとの会合が決裂した混乱に乗じてシロッコに暗殺される。

ティターンズ

U.C.0083年12月に「地球至上主義」を掲げるジャミトフ・ハイマン大将（当時）の指揮により結成されたジオン軍の残党狩りと地球圏の治安維持を目的とした特殊部隊。エリート部隊として士官クラスの専員はすべてアースノイドで構成され、同階級でも一般の連邦軍士官より一階級上の権限を与えられていた。部隊で使用するMSの多くは、当初「ティターンズカラー」と呼ばれる濃紺の塗装が施されていた。

■ジャミトフの理想

ジャミトフは「地球至上主義」を唱える生粋のアースノイドで、再開発に名を借りた地球圏境の汚染を憂いており、特にスペースノイドに対しては「地球を救て奇生虫」と考え、過度なまでの偏見を持っていた。そして、地球の再生は残りの優良なアースノイドによる徹底した人類の管理によってのみ実現すると考えたジャミトフは、軍部主導による独断的な独裁政府を作り上げるため、ティターンズ構想を水面下で準備していたのである。

当時のジャミトフは、地球連邦軍統合参謀本部の軍備の一人として働いており、その際に連邦政府の財務官僚との密接なコンタクトを築き上げていた。このコンタクトはティターンズ設立時において予備の獲得など大きな役割を果たしている。またジャミトフが軍備を結めた宇宙軍参謀部長のジーン・コリント大尉がエリートによる地球圏の管理というティターンズ構想に興味を示し、後ろだてとなったことによりティターンズの結成はより現実味を帯びたものとなった。

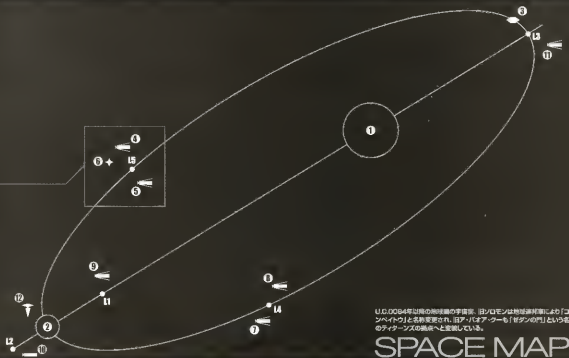
■ティターンズの誕生

U.C.0083年12月4日、地球連邦宇宙軍参謀部長ジーン・コリント大尉の後押しにより、ジャミトフ・ハイマンが指揮するジオン軍残党狩りと地球圏の治安維持を目的とした特殊部隊ティターンズが結成された。

「アースノイド」と呼ばれるジオン軍残党「デラースフリート」による一層の悪化（「北米大陸へのコロト落」と）が起きた前月の13日つまり、地球圏の危機管理体制の見直しからティターンズの結成までがわずか1か月たずで行われており、その裏にはジャミトフの周到な準備と機回しがあつたことがうかがえる。もちろんジャミトフが連邦軍上層部から支持された理由には、ジオン軍残党の問題以外にも各サイドで発生する反地球連邦を呼び起した民衆運動を抑制し、連邦軍の権威を回復するという役割が期待されていたからでもある。

このティターンズの結成に際しては連邦全軍より選りすぐりの人材が集められ、特に実働部隊の士官クラスにおいてはアースノイドであることが絶対条件とされた。これはジャミトフの「地球至上主義」「アースノイド優位論」に基づいた部隊員の選抜基準であったが、この選抜基準はティターンズ隊員の士気向上につながった。もとよりジオンの残党狩りを目的とした実働部隊であることもあり、結成後も組織拡大のための実力のある将校や専攻的な若い士官が集まり、精鋭部隊としての実力は充実していた。

U.C.0084年以降の地球圖の地理



U.C.0084年以降の地球圖の地理。旧ジオンは地球連邦軍により「コンベイト」と名称変更され、旧ア・バオ・クーも「ザダンの門」という名のティターンズの拠点へと変貌している。

SPACE MAP



地上の重要地点

オーストラリアのニュータイプ研究所

北米オアークランドにあるニュータイプ研究所。ニュータイプではないがプラン・ブルタークがMS等の指揮官として常駐している。北米ではオーガスタのニュータイプ研究所と並ぶ重要な指揮の研究施設を有している。

ジャバロー 基地

地球連邦軍の地上基地。0087年5月、ジャブローを奪により破壊した際に、ティターンズが地球上での拠点とした。ジャブロー以外の、地球連邦軍の地上基地としては最大の規模を誇り、カリマンジャロの山の斜面を利用したシャトル打上用のリニアールなども設置されていた。

ジャバロー

地球連邦軍の本拠地が置かれていた南米アマゾン川流域の地下都市。一時期オアークランドは軍政の管轄として、またMSや艦艇の一大生産拠点としても運用されていた。0087年5月、軌道上からの大気圏落下によるエコーゴの被害を受けるが、その被害を事前に察知していたティターンズにより基地は壊滅された。

ダカール

地球連邦政府の管轄が置かれているアフリカ西部の都市。0087年1月にエコーゴの襲撃を占領して、全世界に向けてティターンズの襲撃を告げた。いわゆる「ダカール宣言」を行った場所である。その宣言を行ったのは、俗でもないジョン・ダイクンの連兄ジャ・アズナルとキャスバル・レム・ダイクンであった。

ニューホンコン

宇宙へのシャトル発射レールがあるため宇宙へ向う人々が集まり、大規模な経済的に発展した都市となっている。

ハルノーム基地

アフリカにある地球連邦軍の地上基地。NFX-044試作アッシャー・TR-3(キハール)の重力下世継軍のテストのためエドワード・ハンターや軍医が、TR部隊のメンバーが一時的に施設を利用していた。

ヒッコ

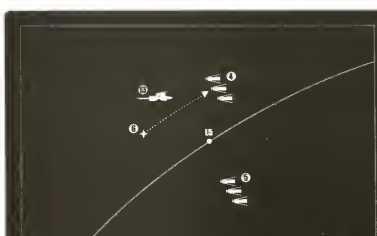
エコーゴの地上における支援補給カラバがもっている北米の基地。シャトル発射施設などを持っており、この施設の運営からカラバの地上における総動員の大きさがうかがい知れる。

ムラサメ研究所

日本にある地球連邦軍のニュータイプ研究所。フォウ・ムラサメなど物知人種の研究とともに、サイコ・ガンダムなどのサイコミュ搭載の機體兵器の開発も行っていた。

宇宙世紀年表

- 0083.12.04 ジェット・ハイマン提督による「ティターンズ」結成。包公圏軍艦発射台完成。
- 0084.06.17 連邦議会、地球連邦の国政刷新を発表
- 0085.05 T3部隊、サイド1・26バッチ内でジオン軍残党と交戦。
- 0085.07 T3部隊、サイド1・30バッチでの大規模な作戦のサポートのため出陣。
- 0085.07.31 30バッチ事件。ティターンズがサイド1・30バッチに毒ガスを注入し住民を迫害。反地球連邦組織（A.E.U.G.＝エーウェー）活動化
- 0085.08 T3部隊、ジオン軍残党との戦闘でTR-1大敗。
- 0085.08.06 グリプス、サイド7に到着
- 0085.10 TR-1の修理および改良完了。試作機がTR-12-1に。
- 0085.10 T3部隊、TR-3の重力下テストのため地上のハルツーム基地へ。
- 0086.02.08 アクシズ、地球圏に向けて発進
- 0087.03.02 エーウェー、グリーン・ノアより試作MS2機を盗奪
- 0087.03.16 エーウェー、太陽電池衛星を破壊
- 0087.03.18 アーガマ、サイド1・30バッチに入港
- 0087.03.25 アーガマ、アンナム市に入港
- 0087.04.29 最後の木星エネルギー輸送船ジュビトリス地球圏に到着
- 0087.05.03 アーガマ、テンパーションと接触。ブライト・ノア、エーウェーに参戦
- 0087.05.11 エーウェー、地球連邦軍艦ジェットローを攻撃。海防艦隊から上陸基地を建設。カラバと合流
- 0087.05.22 エーウェーがM60部隊とカラバのアドムラ、クネビ基地に
- 0087.06.08 ティターンズ、ルナ8衛星にグリプス2、旧ア・バオア・クーを降参。宇宙軍艦「ゼダンの門」到着
- 0087.06.26 ティターンズ、ルンコン・シティを襲撃
- 0087.07.08 アドムラ、ルンコン・シティを襲撃
- 0087.08.10 ティターンズ、「アポロ作戦」を開始。フォン・ブラウン港を襲撃
- 0087.08.16 連邦議会がティターンズの権限を大幅に強化する法案が可決される
- 0087.08.17 エーウェーの地球軍ブレイクス・フォー作戦開始。破壊される
- 0087.09.24 ティターンズ、グラナダ市にコロニー降参としを認めるが失敗
- 0087.09.14 ティターンズ、サイド2衛星に艦隊を編成
- 0087.09.21 ティターンズ、サイド2・26バッチに毒ガス攻撃をし始めるが失敗
- 0087.10.05 ティターンズ、フォン・ブラウン市の一部と港を襲撃
- 0087.10.12 アクシズ、地球圏に到着
- 0087.10.14 エーウェー、アクシズに使節団を遣わすが交渉は決裂
- 0087.10.15 ティターンズとアクシズ、連合を結成
- 0087.10.19 アーガマ、補給と修理のためリアンローズと接触
- 0087.11.02 エーウェーとカラバが同盟。キリマンジャロの連邦軍艦隊を襲撃
- 0087.11.03 キリマンジャロ基地陥落。ジェット・ハイマン、不明へ脱出
- 0087.11.16 エーウェー、ダカールの連邦議会を占拠。全世界にティターンズの実態を暴露
- 0087.11.24 アーガマ、補給のためサイド2・13バッチ（モルガルトン）へ入港
- 0087.11.30 エーウェー、ゼダンの門を襲撃
- 0087.12.07 ティターンズ、グリプス2のコロニーレーザでサイド2・18バッチを破壊
- 0087.12.14 ティターンズ、サイド2・21バッチを重力ガス攻撃。住民は全員死亡
- 0088.01.18 アクシズ、ゼダンの門を襲撃。グリプス2を占拠。小惑星帯地アクシズはグラナダへの国軍艦隊に入る
- 0088.01.25 アクシズとティターンズの交渉が決裂。ジャミトフ死亡。以後、シロコがティターンズの全権を握る
- 0088.02.02 エーウェー、「メールシュートローム作戦」襲撃。衛星軌道によりグリプス2を占拠。アクシズの軌道変更に成功
- 0088.02.20 エーウェー、アクシズ、ティターンズによる連邦軍艦隊を襲撃
- 0088.02.22 エーウェー、コロニーレーザでティターンズの艦隊を破壊させるが、戦力の過半数を消失



T3部隊がベース基地としているコンベイトは、L5（ラグランジュポイント）と呼ばれる、月と地球との引力の平衡で重力場が安定したポイントのこと。月の衛星軌道周回にL1～L5まで存在する）に存在して通り、アスランもこの位置を中心に運搬・降参任務に就いている。30バッチ襲撃が起きたサイド1はここからあるため、30バッチへの作戦実行の際にアスランもこの位置に到着し、最も正確に射撃していたティターンズの指揮としてアスランおよびT3部隊が後方警戒任務に召集されたのである。

- ① 地球 ⑧ サイド8
② 月 ⑨ サイド9
③ ルナツー ⑩ サイド10
④ サイド1 ⑪ サイド11
⑤ サイド4 ⑫ ゼダンの門
⑥ コンベイト ⑬ アスラン
⑦ サイド2



WORLD MAP

RX-121 GUNDAM TR-1[ヘイズル]

RX-121 ガンダム TR-1[ヘイズル]

機体名称:RX-121 ガンダムTR-1[ヘイズル]
所属:地球連邦軍 ティターンズ・テスト・チーム
パイロット:ウェス・マーフィー大尉
開発:地球連邦軍・コンバットMS工庫
武装:ビーム・サーベル
ビーム・ライフル
シールド・ブースター



ガンダムTR-1[ヘイズル]の試作機



ガンダムTR-1[ヘイズル]は、マーフィー大尉に配備された運用実験機である。パイロットは歴戦の兵にしてマーフィー大尉の小隊長「ウェス・マーフィー大尉」が務める。実験機とはいっても実戦での運用を前提として開発されているため、基本的な機体の可動システムは信頼性の高い従来通りのジム系MSのものが採用されている。使用しているビーム・ライフルは、次世代機への装備を目的としたEバック方式の試作品。他にもブースター・シールドなど様々な装備が開発・試験されていた。

RX-121 ガンダム TR-1[ヘイズル]

機体名称 RX-121 ガンダムTR-1[ヘイズル] フルアーマー形態
所属 地球連邦軍 ティターンズ・テスト・チーム
ブラックオター小隊
パイロットウェス・マーフィー大尉
開発 地球連邦軍 コンベイトMS工場
武装 ビーム・サーベル/ビーム・ライフル
シールド・ブースター



TR-1 フルアーマー
パーソナルマーク



■ 基本仕様

バックアップ・システムは省略されず、
高レベルの性能を有する。

機体の主な
武装は、ビーム・サーベルと
ビーム・ライフル。また、
ビーム・シールドも装備する。

■ 武装・装備

主な武装として、
ビーム・サーベルと
ビーム・ライフルが
装備されている。
また、ビーム・シールドも
装備する。

また、機体の
主な武装として、
ビーム・サーベルと
ビーム・ライフルが
装備されている。



機体の内部構造



機体の内部構造

■ 機体の構造

機体の構造は、
高レベルの性能を有する。



ガンダムTR-1には、一年戦争中に開発されたガンダム“RX-78NT-1アレックス”同様に増加装甲システムが用いられている。ジム・クアールをベースとしているガンダムTR-1は、機体各部に強化パーツを増設することでガンダムタイプMSとしての性能を実現しているが、強化パーツの内、バックパック、胸部および腕部の“白いパーツ”は固定式となっており、胴体正面の増設装甲のみが電脱可能な“増加装甲システム”となっている。これは増設率の高い胴体正面部に着脱可能な装甲を設置することで、経路で被弾しダメージを受けた装甲を容易に交換ができるようにとのメンテナンス面での配慮である。ただし、増加装甲を装着することで機体重量が増加してしまうため、ガンダムTR-1の持つ機動力が失われてしまうという欠点もある。

シールド・ブースターを両手と背部
にバック・バックの可動式ブースター
ボッドに、計3枚装着した状態がガン
ダムTR-1の高機動形態である。増加
装甲システムとシールド・ブースター
をフル・オプションで装着している
ことから「最終形態」という別名で呼ば
れることもある。3枚のシールド・ブ
ースターの推力方向を一定に揃えるこ
とで、大加速を得ることが可能であり、
MA並のスピードを実現している。ガ
ンダムTR-1の真骨にはこの高機動形
態時専用のホールディング・グリップ
が収納されており、それを握ることで
両腕を固定し安定した巡航を可能に
している。この高機動形態での推力
方向の統一というコンセプトは、後の
ディターンズによる可変MBの開発に
少なからず影響を与えている。



RX-121 ガンダム TR-1[ヘイズル]

機体名称 RX-121 ガンダムTR-1[ヘイズル] 高機動形態

所属 地球連邦軍 ディターンズ・テスト・チーム

ブラックオター・小隊

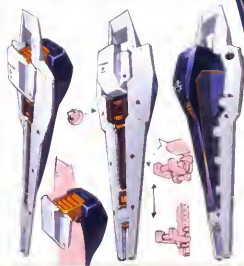
パイロット ウェス・マーフィー・大尉

開発 地球連邦軍・コンバイトゥWSB工廠

武装 ビーム・サーベル

ビーム・ライフル

シールド・ブースター



47ガンダム機体部分



機体部分の分解、組み立ては、この図を参照してください。
また、この図を参照して、機体の各部の名称を確認してください。



「特たせたいね」
「オードリーの声だ。エリアルドは希望の湖から死に飛び出したんだ。だから、ガンダムの姿はそれくらい効果がある。敵に對しても効果は大きいんだ。敵はガンダムの出現に明らかに動揺している。マーフィー隊長もその隙を見逃すはずはない。エリアルドとオードリーがアメイジーに、オードリーのガンダム・ヘイズルは高機動性を遺憾なく発揮した。ガンダムの出現が絶望をがらりと変えた。その姿はそれだけ精神的な影響力が強いことを物語っている。エリアルドもこそとばかにビームライフルを撃ちまくった。」

レーダーが接近する物体を捉えた。味方の識別信号を出しているエリアルドは思わずつぶやいていた。
「何だ？ モビルアーマーか？」
やがてモビルアーマーがその姿を現した。やはり、モビルアーマーに見える。だが、次の瞬間、その姿が変わった。実はシールドを左右に開いたたけなのだが、その変化は劇的に見えた。ガンダム・ヘイズルが姿を現したのだ。
「特たせたいね」
オードリーの声だ。エリアルドは希望の湖から死に飛び出したんだ。だから、ガンダムの姿はそれくらい効果がある。敵に對しても効果は大きいんだ。敵はガンダムの出現に明らかに動揺している。マーフィー隊長もその隙を見逃すはずはない。エリアルドとオードリーがアメイジーに、オードリーのガンダム・ヘイズルは高機動性を遺憾なく発揮した。ガンダムの出現が絶望をがらりと変えた。その姿はそれだけ精神的な影響力が強いことを物語っている。エリアルドもこそとばかにビームライフルを撃ちまくった。

RGM-79CR ジム改高機動型 & RGM-79SR ジム・スナイパー

機体名称 RGM-79SR ジム・スナイパーⅢ
所属 地球連邦軍 ティターンズ・デスト・チーム
ブラックオクトール隊
パイロット:カール・マツバラ中尉
開発 地球連邦軍、コンベイトWSM工廠
武装 60ミリバルカン/ビーム、サーベル
ロングレンジ:ビーム・ライフル/シールド



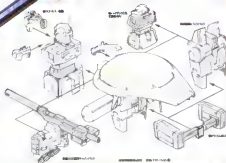
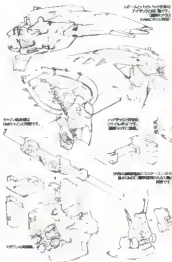
機体名称: RGM-79CR ジム改高機動型
所属: 地球連邦軍 ティターンズ・テスト・チーム
パイロット: エリアルド・ハンター中尉
開発: 地球連邦軍・コンベイトウMS工廠
武装: 60ミリバリアルカン/ビーム・サーベル
ビーム・ライフル/シールド

RGM-79CR ジム改高機動型

機体名称 RGM-79CR ジム改高機動型 / 「J」エーション
所属 地球連邦軍 ティターンズ・テスト・チーム
ブラックオター小队

パイロット: カール・マツバラ中尉、他
開発: 地球連邦軍・コンバイトMS工廠
武装: 60ミリバールカン・ビーム・サーベル
ビーム・ライフル 伸縮式シールド 抱

T3部隊は実験部隊という性格上、さまざまなオプション装備や武装の運用実験を行っている。右のイメージ図もT3部隊で運用実験が予定されていた武装/「J」エーションの一例である。中距離支援ユニット、通称「キャンノン・バック」はジム・キャンノンなどの中距離支援機のコンセプトをバックアップの交換のみで実現する装備である。高機動バックパックは、YRMS-106ハイザック先行量産型のもをより強化した仕様のもので、ジム系の機体との相性が試験される予定であった。実際にはガンダムTR-1用に開発されていたシュツルム・ブースターがガンダムTR-1予備機に装備されたり、キャンノン・バックがジム・スナイパーⅡへと装備されるなど、プランとは異なる機体で各々の装備の運用実験が行われた。



エリアルドが乗ったジムのモーターには、カールのジム・スナイパーと「ファイア」小隊長の機が映し出されている。小隊長の機体にはガンダム・ヘッドが搭載されていた。ジョーンは覚悟にガンダムの姿がどれほどの心理的影響を与えるかをテストする目的で作られた機体だ。中はジム・ヘッドのエルドである。ガンダム・ヘッドと肩は別れた。

「まるで、超常現象面（二面）の方ですね」

ヘッドセットから「ファイア」小隊長の機が飛び込んできた。エリアルドは視察し、サク用のマシンガンを持ったクルグが二機だ。間違いない。ジョーンの機体だ。再び「ファイア」の機が響く。

「カール、長距離砲撃、撃て」

カールが乗るジム・スナイパーのロケット・エンジンが燃え上がり、機体は加速される。

次の瞬間、ドッグファイトに突入した。

エス・パイロットだ。

エリアルドはジムを操りながら、心の中でつぶやいた。

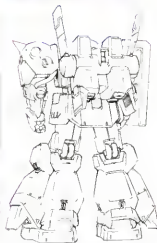
冗談じゃない。いきなり、実験じゃないぞ。

「エス・パイロット、E.P.100を撃て」

YRMS-106 ハイザック

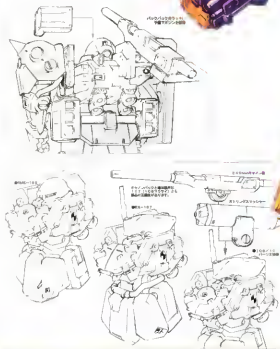
機体名称 YRMS-106 ハイザック先行量産型
所属 地球連邦軍 ティターンズ・テストチーム
ブラックオター小隊
パイロット・ウェス・マーフィー大尉、カール・マツバラ中尉
開発 アナハイム・エレクトロニクス/コンバットWMS工
武装 固定シールド・ビーム・ライフル

ハイザックは、アナハイム・エレクトロニクス社（以下、AE社）がMSメーカーとしてはじめて世に送り出した主力MSである。旧ジオン軍の名称“ザクⅡ”を彷彿とさせる外観は、ジオン最大手のMSメーカーであったジオニック社を吸収合併したAE社ならではのデザインといえる。そして、その開発ノウハウは外観だけでなく内部構造にも活かされており、ザクⅡと同様に生産性や稼働の信頼性は極めて高いIMSとなっている。ビーム兵器の運用はもちろん、量産機としては初めて「リアアシート」と「全天候型モニター」を標準装備するなど画期的な機体であった。連邦軍ではほぼ制式採用が内定しており、ティターンズでも採用を検討するためにT3部隊に評価試験機が納入された。



YRMS-106K ハイザックキャノン

先にジム・スナイパー直に装備されテストが行われた中距離支援ユニット、通称「キャノン・バック」をハイザックに装着したもの。ハイザックは、このようなユニット換装による柔軟な機体運用が開発段階からコンセプトとして盛り込まれており、ほぼ無改造でユニット換装に対応することができる。胸部には、無敵可能な汎用増加装甲ユニットが装備され、様々なタイプの装甲システムがテスト可能となっている。



「バスクたちがサイードの30センチで俺が作戦行動を取るらしい。アスランはその後方支援に当たる。出撃してくれ」

「マフイー小隊長が言った」

「ヘイズルは破壊しています。修理が間に合いません」

「新機に配備されたハイザックという機体がある。テストを要するといっている」

「断るわけにはいかないのはエリアルにもわかる」

「アッパルは、マフイー小隊長に話した」

「アッパルは、マフイー小隊長に話した」

「ペダルン大佐は、うなずいた」

「ここはバスクに話をさせておくのも悪くない」

「マフイー小隊長は、ハイザックに乗り込んだ」

「エリアルは、旧ジオン公国のザクに似たその姿があまり好きではなかった」

「さあ、出るぞ」

「マフイー小隊長は、軍人らしく、勇気も」

「マフイー小隊長は、軍人らしく、勇気も」

「マフイー小隊長は、軍人らしく、勇気も」

「マフイー小隊長は、軍人らしく、勇気も」

「マフイー小隊長は、軍人らしく、勇気も」

「マフイー小隊長は、軍人らしく、勇気も」

「マフイー小隊長は、軍人らしく、勇気も」

「マフイー小隊長は、軍人らしく、勇気も」

「マフイー小隊長は、軍人らしく、勇気も」

「マフイー小隊長は、軍人らしく、勇気も」

「マフイー小隊長は、軍人らしく、勇気も」

「マフイー小隊長は、軍人らしく、勇気も」

「マフイー小隊長は、軍人らしく、勇気も」

「マフイー小隊長は、軍人らしく、勇気も」

「マフイー小隊長は、軍人らしく、勇気も」

YRMS-106+BL-85X バイザック TR-2[ビグウィグ]

機体名称 YRMS-106+BL-85X バイザック TR-2[ビグウィグ]

所属 地球連邦軍 ティターンズ・テスト・チーム

プラックオスター小隊

パイロット:カール・マツバラ中尉

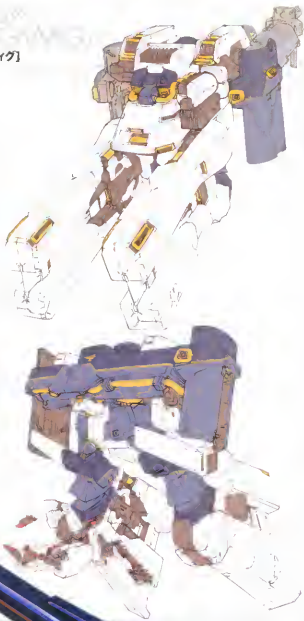
開発 地球連邦軍コンバットウMS工廠

武装 試作型高出力ロングレンジ・ビームキャノン



バイザックTR-2[ビグウィグ]は、MSが通常可能な長射程のビーム・キャノンとそれを輸送する推進装置やオペレーションシステムなど、火器を運用するシステム全体の実用試験のために開発されたもので、そのベース機には機体番号であるRMS-106バイザックが使用されている。このバイザックTR-2のベース機にバイザックが選ばれたことにはそれなりの訳があった。バイザックは、それまでの地球連邦軍主力MSであるジム・シリーズに比べ、部品交換などの簡便化のため機体のユニット化が進んでいた。その先進的なユニット構造ゆえ機体の改造が非常に容易であり、また機体外部に露出している動力パイプをつなぎかえることにより動力(エネルギー)を外部機関に出力することも可能だった。この動力の外部出力機構がTR-2のベース機として非常に適していたのである。

TR-2 ハイザックマーク



A WAVE

地球連邦軍 ティターンズ・テスト・チーム

プラックオスター小隊

パイロット:カール・マツバラ中尉

機体番号 YRMS-106+BL-85X

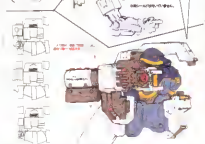
開発 地球連邦軍コンバットウMS工廠

武装 試作型高出力ロングレンジ・ビームキャノン

機体カラー:ブルー・ホワイト・イエロー

機体サイズ:全高18.0m

機体重量:全重18.0t



TRI-2に装備されているビーム・キャノンには、連射機能と目的に応じて変えられるものである。砲身を長くしてメガ粒子の伝導率を高め、威力を落とさなく砲撃距離の増大を行えるようにしている。砲撃後方に突き出ているスラスター・ユニットはプロペラントタンクと推進板が一体化したユニットで、砲体固定用のクローや機体側のランディングギアなども内蔵されている。完全に固定したユニットとなっており、別ユニットへの取換えも容易に行うことができる。

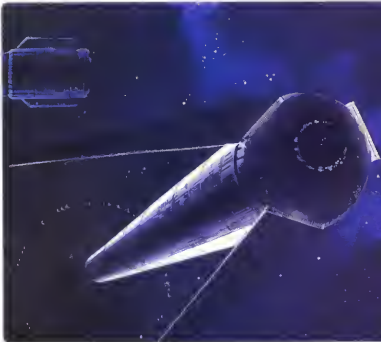


「へえ、本当にこれに集まるのか……」
 モビルスーツや、テスト用の新兵器を
 見上げて、カール・ワッパがうなづいた。エリ
 アルドもその様子をうかがっていた。
 ハサガのバリエーションには違いない。だ
 が、機体よりも、試みられている火銃のほうが
 目を引く。巨大なビーム・キャノン。でも、ま
 さにそのほか、火銃を取り回すために、側
 面に設けられた巨大なフラスターが取り付けら
 れている。
 「これ、ヒルズ・ワッパより、推進機構の
 砲門じゃねえか」
 カールの声がヘルメット内の通信設備から
 聞こえてくる。
 「うう、さっきのうんじゃあ、このヘルメット内に
 ビット・センサーの音が響いた。若いメカワ
 クだ。テスト小隊だろう。威力はばつりだ
 ぜ。へたな性能の主砲以上の威力がある。レ
 ンジも破壊単位だ」
 「だが、おれを呼ぶに、ヘテラシメとワックス・
 ドリック・メスの声だ」「ビーム・キャノンの長
 さと、機体とんでもない慣性を生み出す。自
 由自在に動き回るといっわけにはいかず」
 (Advance Gundam 100 第22話 機体)

U.C.0085.7.31「30バンチ事件」



住人がすべて死滅し、ミラを襲撃する者もいなくなった30(バ)ンダコロニーへ、反対ミラが24時間太陽光でコロニー内を照らし続ける常照の世界となった。気象システムのコントローラを倒していないため、コロニー内は緑意が充ちて繁栄し、湧き出た太陽光は死体をカラカラに乾燥したミラと化してしまっていた。そこまでは死の世界で、人々は突如と注ぎ込まれた酸素ガスによって生き返る痛も無く死に至ることなく、中には希望者ももっていたが、ペンチに鎖付けと赤糸を巻く地獄がその最悪の状態でミラに化して死体であるため、真意でティターンズがフックした無差別攻撃の惨害を指摘している



サイド1
30バンチ

山や平野など、北アメリカ中西部のような西部劇風の景観を持つ300万ヘクタールは、サイド1の中ではリゾート色の強いコロニーであった。コロニーの外景からはなかなか見分けることは難しいが、同一のサイド内であっても各コロニーごとに設備や風景の違いがあり、それぞれ異なる居住者のステータスとなっていた。

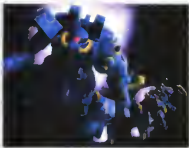
30 バンチ事件とその真相

U・C・0085年7月31日、連邦軍内におけるティターンズの発進力を二割に増大させることとなった未曽有の大殺戮「30パンチ事件」が発生した。

[illegible]

二十一人の住人は完全に死滅し、もちろんこの家はバスの大炬の独断によって行われたものだが、事件の真相はイタリアにおよび連邦軍によって隠蔽された。30バチの住人の大数死は致死性の高い伝染病がコロニー内で流行したためと報道され、以降感染の危険を避けるためとして30バチへの切の立ち入りが禁止され、30バチコロニーは放棄されたコロニーとなった。

[illegible]



※バスコ・オム大佐の持つ特製の作戦を知らされないまま、エアリアルたちは警戒を解くと出陣した。ジオン軍機との遭遇が、この作戦の重要性を露呈しているが、エアリアルたちに予備感が湧く。

30バンチ事件における T3部隊の役割

30バンチへのバスコ・オム大佐の作戦行動において、T3部隊に任せられた任務は主力部隊となるバスコ・オム大佐の部隊の防衛であった。戦野坂地球連邦政府の集合として発生した30バンチの攻撃行動であったが、エアーやジオン軍機との遭遇がゼロだつた訳ではない。この攻撃集合の情報は「戦艦のエアラー」やジオン軍機と、それら総動員のシンパたちの情報網を使つてもたつた、様々な形で支援が行われていた。その30バンチにタイタンズが侵襲するにつれて、戦況では対峙を保有しないエアーはかきとじ、ジオン軍機のように周囲からの監視は当然手控されるべきものだ。そうした能力による抵抗に対してバスコ・オム大佐の部隊が作戦に集中できるように、T3部隊などの部隊が後方支援としてサイド1周辺周辺の警戒任務を担つていたのである。

※エアリアルたちがマーフィーや華は、バスコ・オム大佐が行う「前線」の作戦の地方支援のためコンベイトウからサイド1軍地へと移動していた。ほどなくジオン軍機との接触へと突入するが、ジオン軍機は長距離のシャトルを保護、それを守るかのような行動をとる。ジオン軍機の使用に、敵意を覚めるマーフィーらだったが、その真意が両軍の軍機露出を出しているジムの攻撃のシャトルを破壊するという超戦不可能な出来事が起こる。

サイド1「コンベイトウ」周辺

0085年7月

コンベイトウと30バンチは、ほんの目と鼻の先だとはいえ、モビルスーツのペイロッドで到達できる距離ではない。出陣したマーフィー小隊の役割は、オースト・セルセン大佐が言ったとおり、100パーセント後方支援なのだ。エアリアル・ハンターは認識してはいない。セルセン大佐は言った。

「バスコたちがサイド1の30バンチで何か作戦行動を敢るらしい」

それがどんな作戦なのか、エアリアルは知らない。だが、地球連邦にとつて重要な作戦に違いがない。その後方支援といふからには、重要な任務なのだ。エアリアルは思った。

「レィダーに反応。カール・マツバラの陣地側へ来た。艦だ。軍機行動を取つたら、北極星艦隊の力が必要だ」

「誰だ、それが」

「戦艦のワス・マーフィー大尉の部隊だ」

「ザンバルですわね。サイド1に向かうついま」

「ジオン機動隊。反地球連邦軍艦の連中と手を組んでるのかもしれない。マーフィー隊長が言う」

「いずれにしても、敵だ。行くぞ。やつらの鼻先を叩く」

2000年1月1日、SIDE1より後方



※戦艦の力に助けられ、サイド1のマーフィー小隊は、この作戦の重要性を露呈しているが、エアリアルたちに予備感が湧く。

NRX-044[R] PROTOTYPE ASSHIMAR TR-3 (キハール) MOBILE SUIT FROM

NRX-044[R] 試作アッシマー TR-3[キハール]

可変モビルアーマーのメリットは、モビルアーマーの機動力とモビルスーツの汎用性を合わせ持つことで、状況に応じて両方の利点を最大限に発揮できる点にある。しかし、変形を実現するためには強度を必要とする機体フレームに変形のための可変機構を組み込む必要がある。技術的にフレーム強度を維持することが困難で、机上の空論の域を出ていなかった。NRX-044[R]試作アッシマーTR-3(キハール)は、この問題を克服してMA形態からMS形態への変形を実現したはじめての機体アッシマーを改造したTMAである。試作機の域を出ていないため機体の稼働率が充分ではなく、特に背部から見ると腕や脚の付着部分のフレームがむき出しになっているのがわかる。とはいえ、このアッシマーの開発成功により時代は可変機動兵器の開発へと大きく動きはじめることになる。

機体名称: NRX-044(R)
試作アッシマーTR-3 [キハール]
所属: 地球連邦軍 ティターンズ・テスト・チーム
ブラックオター小隊
パイロット: ウェス・マーフィー大尉
開発: 地球連邦軍コンバートのMS工場
武装: 専用ビーム・ライフル

TRANSFORMER

NRX-044(R)

MOBILE SUIT FROM

NRX-044(R)

TRANSFORMER

NRX-044(R)

MOBILE SUIT FROM

NRX-044(R)

MOBILE SUIT FROM

NRX-044(R)

MOBILE SUIT FROM

NRX-044(R)

MOBILE SUIT FROM

NRX-044(R)

MOBILE SUIT FROM

NRX-044(R)

MOBILE SUIT FROM

NRX-044(R)

MOBILE SUIT FROM

NRX-044(R)

MOBILE SUIT FROM

NRX-044(R)

MOBILE SUIT FROM

NRX-044(R)

MOBILE SUIT FROM

NRX-044(R)

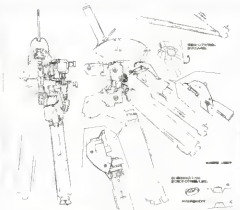
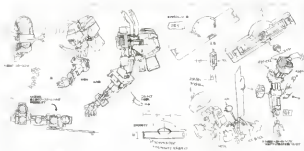
MOBILE SUIT FROM

NRX-044(R)

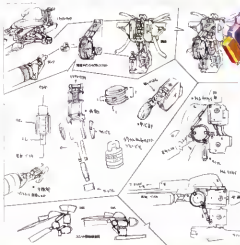
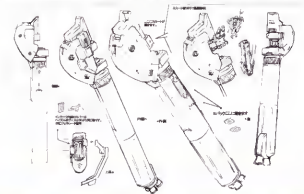
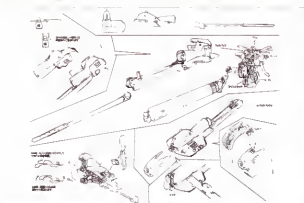
MOBILE SUIT FROM

NRX-044(R)

MOBILE SUIT FROM



アッシマーは、一年戦争終結後に連邦とジオンの技術が融合し、機動兵器の発展が一足レベルの技術的成熟を遂げた成果と見える。しかし、可変システムはまだ手ごたえの試験の段階であり、その機体で100パーセント実現するには至っていない。試作アッシマーのMS形態も、関節に当たるパーツはプロペラントタンクとスラスターを組み合わせた推進ユニットであり、セピリスーツと異なり俗ものには適さず無情がある作りとなっている。

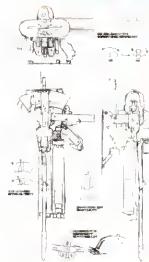
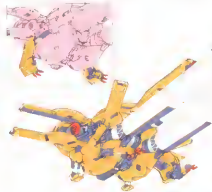


アッシマーがモビルスーツ形態に変形した瞬間が戦闘開始の合図だった。マフラー小隊長のラッシュが、カルのジム・スナイパーとエリアルドのヘイエル2号機を相手にする。エリアルドはアッシマーの変形の速さに驚いた。モビルアーマーとモビルスーツをいじめるなど、所詮どこかに無理があるだろうと思っていた。しかし、その変形の過程は滑らかでほとんど一瞬でモビルアーマーからモビルスーツへと変化した。その驚きを抑えきれなかった。アッシマーがラッシュを撃つてきた。エリアルドはあわてふくんでスナイパーを撃った。またしてもヘイエルの推力をうまくあててしまった。機から大きなハマで降りつけられたように感じた。『ななて加速だ……』思わずリッパルどつぶやいていた。

（アッシマーはモビルスーツの100%の性能を発揮する）

NEW-QUALITY
PROTOTYPE ASSHIMAR
THE NEW-QUALITY PROTOTYPE

NRX-044[R] 試作アッシマー TR-3[キハール]



NRX-044アッシマーは連邦軍が開発を進めている大気圏内飛行能力を持った可変モビルアーマーで、ド・ダイVSなどのサブ・フライト・システムを必要とせずに単独で飛行可能な機動兵器として地球連邦地上軍から熱望されている新型機である。この画期的な新兵器に目を付けたティターンズは、なかば強引にこの試作機を接収し、独自の改良を加えて完成させたのが試作アッシマーTR-3である。その可変システムは、ギアやシャフト、シリンダーを複雑に組み合わせて作られた臨期的なドラム・フレームにより形成されている。この可変技術が発展して後にムーバブル・フレームを生み出すきっかけとなっている。



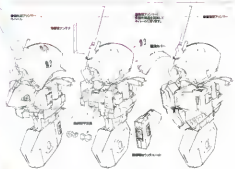
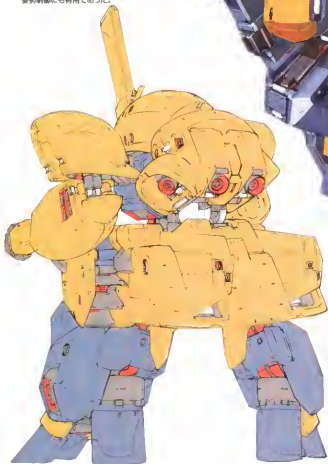
NRX-044[R]のサブフライトシステム

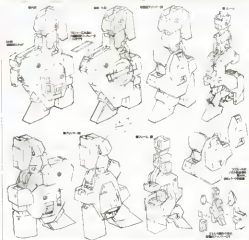
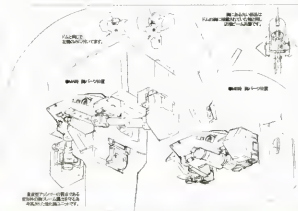
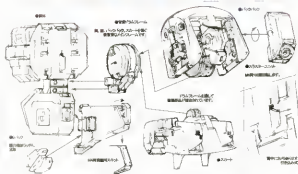
「行くぞ、マザー・フリー小隊長の軍が聞こえた」
「キハールの推力が爆発した」
「イズムは左側からジムスナイパー由は左側からミサイルとキハールにミサイルと機体を保持した」
リプースの頭には、メイプルスタアの火器すべてを両方向にそれぞれ推力を管理しなければならぬ。
地球連邦では失速すれば重力に引かれて地球に落ちる。重力が大きいほどリプースには推力が必要だ。つまり、低軌道というのはそれだけ機体にかかる負担と危険が大きいということになる。
加えて、デブリの問題があった。軌道上のデブリは高速で周回している。それぞれが弾丸や砲弾のようなものだ。それが機体を成して近づいているというのだ。シャトルの外壁を穿たれる恐れがある。
キハールのコンピュータが、修正データに従って加速する体制に入った。

NRX-044 試作アッシマー TR-3[キハール]

機体名称 NRX-044(R) 試作アッシマー-TR-3 (キハール)
 所属 地球連邦軍 ディターンズ・テスト・チーム
 ブラックオター小队
 パイロット:エリアルド・ハンター中尉
 開発 地球連邦軍コンベイトMS工業 /ハルツーム基地
 武装 専用ビーム・ライフル

宇宙でのテストを終え重力下仕様に戻されたTR-3[キハール]。すでにテストが行われていた連邦軍のアッシマーによる実験データをもとに機体各部に改良や強化パーツが施されている。メインスラスターとなるTR-3の脚部推進器には、試作段階の新型熱核エンジンが搭載されており、通常型のアッシマーを遥かに凌ぐ推進力を有している。MA形態時の後進上昇用補助推進器として装備されているスカート・ユニットは、MS形態時の空中戦における姿勢制御にも有用であった。





可変機構において中心的な役割を担う円筒状のドラムフレーム。この回転式のドラムフレームに胴体やバックパックといった各パーツが組み立てられ、複雑な変形を可能にしている。TFR-3の機構はエントは通常のアサシマーとは大きく異なる構造の一つで、旧ジオン軍の機体M5ドムに採用されていた巨大なドラムフレームが、こちらが改良されている。これは壊れるとこの新しい使用可能に耐えて、相手の破壊を待つことが可能の構造に仕上がることから採用された機構である。



『ガンダムアヴァンセ』第43話より

アロレイの空中戦にて……

「なるほど、燃料を節約するためにちやちやとみる気持ちはあるかもしれない。ジャンプを繰り返す行動パターンは、相手から見て捉えにくいには違いない。」

「重力下でないまだに未知な技術なのだ。だから、その土星学校の教科書に載っていたのだ。」

エリアルドはハルを離れさせた。その瞬間にバリアを壊し、両腕のアクシオナイターの力を加えて高高度ジャンプした。

その衝撃は想像をはるかに超えていた。巨大な戦艦と衝突したような衝撃だ。全身がシートに叩きつけられ、スリットがびりびりと揺れた。

エリアルドは思わず首を振っていた。体がシートに固定されていなければ、大怪我をしていただろうかもしれない。

「アロレイはこんな衝撃に耐えるジャンプを繰り返して敵戦艦を撃ち落とすというのさ……」

推力を切り、ジャンプの頂点に来ると、自然落下に任せる。その間に、ライフルを撃ちまくる。

また驚愕。激しい衝撃。エリアルドは首を食いついて熱核エンジンを撃ち込んで両部を大地を蹴る。

MS-03F
ZAKLUSZENIE

MS-06F ザクII[シュトウツツアー]

機体名称 MS-06F ザク・シュトゥッツァー

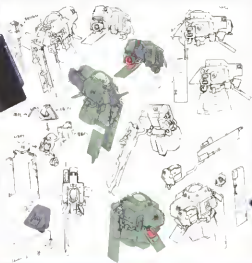
所属 ジオン公園軍残党

パイロット・シューター

開発: ジオン公国軍残党 陸奥宙域秘密基地

武器 ビーム・ライフル/ウインチ・ユニット/ワイヤー・カッター/シールド

一戦終結時、シオン軍を代表する重臣であったザクも、この時代において旧式戦の代表格となっており、海軍軍が次々と実戦投入する新装備や新戦術に対抗するため、シオン軍境ではザクの指揮能力にたのみの改造が盛んに行われていた。0083年の「デラース紛争」においてデラース・フリードが使用していたMS-21「CDラッシャー」は、ザクを高速駆動用MSへと再生した好例といえる。ザク・シロホウザーは、この部隊の独自装備であるウイング・ユニットと、ゲルグダグのビーム・ライフルを胸部に固定装着することで、戦術力の強化を行っている。



(3) $\text{CH}_3\text{COOH} + \text{CH}_3\text{COO}^- \rightleftharpoons \text{CH}_3\text{COOH} + \text{CH}_3\text{COO}^-$

ヘイスルは、敵が張り巡らせていたワイヤーの
トラップに思い込まれたのだ。

このままでは、ヘイズルは短い撃ちだ。ゲルググを連打している場合ではない。動きを止めたヘイズルに向かって、メイン・スラスターを噴かせた。

「待つていてください」「エリアルドは、ワイヤーに呼びかけた。「サーベルでワイヤーを焼き切りま

あと一歩というところで、突然ヘイスルが青白い光に包まれた。

「触れるな」マーフィーの声が聞こえた。「ワイヤーに電流を流している。こちらのシステムをダウンさせるのだ」

1997, 1998, 1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022, 2023, 2024, 2025, 2026, 2027, 2028, 2029, 2030, 2031, 2032, 2033, 2034, 2035, 2036, 2037, 2038, 2039, 2040, 2041, 2042, 2043, 2044, 2045, 2046, 2047, 2048, 2049, 2050, 2051, 2052, 2053, 2054, 2055, 2056, 2057, 2058, 2059, 2060, 2061, 2062, 2063, 2064, 2065, 2066, 2067, 2068, 2069, 2070, 2071, 2072, 2073, 2074, 2075, 2076, 2077, 2078, 2079, 2080, 2081, 2082, 2083, 2084, 2085, 2086, 2087, 2088, 2089, 2090, 2091, 2092, 2093, 2094, 2095, 2096, 2097, 2098, 2099, 2100, 2101, 2102, 2103, 2104, 2105, 2106, 2107, 2108, 2109, 2110, 2111, 2112, 2113, 2114, 2115, 2116, 2117, 2118, 2119, 2120, 2121, 2122, 2123, 2124, 2125, 2126, 2127, 2128, 2129, 2130, 2131, 2132, 2133, 2134, 2135, 2136, 2137, 2138, 2139, 2140, 2141, 2142, 2143, 2144, 2145, 2146, 2147, 2148, 2149, 2150, 2151, 2152, 2153, 2154, 2155, 2156, 2157, 2158, 2159, 2160, 2161, 2162, 2163, 2164, 2165, 2166, 2167, 2168, 2169, 2170, 2171, 2172, 2173, 2174, 2175, 2176, 2177, 2178, 2179, 2180, 2181, 2182, 2183, 2184, 2185, 2186, 2187, 2188, 2189, 2190, 2191, 2192, 2193, 2194, 2195, 2196, 2197, 2198, 2199, 2200, 2201, 2202, 2203, 2204, 2205, 2206, 2207, 2208, 2209, 2210, 2211, 2212, 2213, 2214, 2215, 2216, 2217, 2218, 2219, 2220, 2221, 2222, 2223, 2224, 2225, 2226, 2227, 2228, 2229, 2230, 2231, 2232, 2233, 2234, 2235, 2236, 2237, 2238, 2239, 2240, 2241, 2242, 2243, 2244, 2245, 2246, 2247, 2248, 2249, 2250, 2251, 2252, 2253, 2254, 2255, 2256, 2257, 2258, 2259, 2260, 2261, 2262, 2263, 2264, 2265, 2266, 2267, 2268, 2269, 2270, 2271, 2272, 2273, 2274, 2275, 2276, 2277, 2278, 2279, 2280, 2281, 2282, 2283, 2284, 2285, 2286, 2287, 2288, 2289, 2290, 2291, 2292, 2293, 2294, 2295, 2296, 2297, 2298, 2299, 2300, 2301, 2302, 2303, 2304, 2305, 2306, 2307, 2308, 2309, 2310, 2311, 2312, 2313, 2314, 2315, 2316, 2317, 2318, 2319, 2320, 2321, 2322, 2323, 2324, 2325, 2326, 2327, 2328, 2329, 2330, 2331, 2332, 2333, 2334, 2335, 2336, 2337, 2338, 2339, 2340, 2341, 2342, 2343, 2344, 2345, 2346, 2347, 2348, 2349, 2350, 2351, 2352, 2353, 2354, 2355, 2356, 2357, 2358, 2359, 2360, 2361, 2362, 2363, 2364, 2365, 2366, 2367, 2368, 2369, 2370, 2371, 2372, 2373, 2374, 2375, 2376, 2377, 2378, 2379, 2380, 2381, 2382, 2383, 2384, 2385, 2386, 2387, 2388, 2389, 2390, 2391, 2392, 2393, 2394, 2395, 2396, 2397, 2398, 2399, 2400, 2401, 2402, 2403, 2404, 2405, 2406, 2407, 2408, 2409, 2410, 2411, 2412, 2413, 2414, 2415, 2416, 2417, 2418, 2419, 2420, 2421, 2422, 2423, 2424, 2425, 2426, 2427, 2428, 2429, 2430, 2431, 2432, 2433, 2434, 2435, 2436, 2437, 2438, 2439, 2440, 2441, 2442, 2443, 2444, 2445, 2446, 2447, 2448, 2449, 2450, 2451, 2452, 2453, 2454, 2455, 2456, 2457, 2458, 2459, 2460, 2461, 2462, 2463, 2464, 2465, 2466, 2467, 2468, 2469, 2470, 2471, 2472, 2473, 2474, 2475, 2476, 2477, 2478, 2479, 2480, 2481, 2482, 2483, 2484, 2485, 2486, 2487, 2488, 2489, 2490, 2491, 2492, 2493, 2494, 2495, 2496, 2497, 2498, 2499, 2500, 2501, 2502, 2503, 2504, 2505, 2506, 2507, 2508, 2509, 2510, 2511, 2512, 2513, 2514, 2515, 2516, 2517, 2518, 2519, 2520, 2521, 2522, 2523, 2524, 2525, 2526, 2527, 2528, 2529, 2530, 2531, 2532, 2533, 2534, 2535, 2536, 2537, 2538, 2539, 2540, 2541, 2542, 2543, 2544, 2545, 2546, 2547, 2548, 2549, 2550, 2551, 2552, 2553, 2554, 2555, 2556, 2557, 2558, 2559, 2560, 2561, 2562, 2563, 2564, 2565, 2566, 2567, 2568, 2569, 2570, 2571, 2572, 2573, 2574, 2575, 2576, 2577, 2578, 2579, 2580, 2581, 2582, 2583, 2584, 2585, 2586, 2587, 2588, 2589, 2590, 2591, 2592, 2593, 2594, 2595, 2596, 2597, 2598, 2599, 2600, 2601, 2602, 2603, 2604, 2605, 2606, 2607, 2608, 2609, 2610, 2611, 2612, 2613, 2614, 2615, 2616, 2617, 2618, 2619, 2620, 2621, 2622, 2623, 2624, 2625, 2626, 2627, 2628, 2629, 2630, 2631, 2632, 2633, 2634, 2635, 2636, 2637, 2638, 2639, 2640, 2641, 2642, 2643, 2644, 2645, 2646, 2647, 2648, 2649, 2650, 2651, 2652, 2653, 2654, 2655, 2656, 2657, 2658, 2659, 2660, 2661, 2662, 2663, 2664, 2665, 2666, 2667, 2668, 2669, 2670, 2671, 2672, 2673, 2674, 2675, 2676, 2677, 2678, 26

もちろんモビルスーツのコンピュータシステムは陸軍にシールドされている。だが、強い電流を流されると、そのシールドもいつまでもつかわからない。モビルスーツというのは精密機械とコンピュータシステムの塊だ。

「絵や彫の腕前部のコネクタをやられた」
マフイーが言った。おそろしく冷静な声だ
つた。

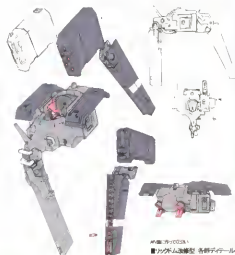
電流を流してゐるのはよいだ…… エリアルドは、ヘイナルの機になりつづ、乗離をした。いた。三機目の時、ザクだった。ザクがお腹に、溜んでワイヤーを展開している。エリアルドは、そのザクに向けてヒュームライフルを撃った。

MS-09R RICK-DOH (リック・ドム)

MS-09R リック・ドム[シュトゥッツァー]

機体名称: MS-09R リック・ドム・シュトゥッツァー
所属: ジオン公国軍残党
パイロット: ガブリエル・ゾラ
開発: ジオン公国軍残党 阿徳田城秘密基地
武装: 5連装ミサイル・ボッド/ウインチ・ユニット
ワイヤー・カッター/機密散布ユニット

ジオン軍残党により独自の改造が施されたリック・ドム。大幅に選定武装が強化されており、機体正面にはウインチ・ユニット、肩にはミサイル・ボッドと機密散布ユニットが装備されている。武装は通常マニピュレーターによって操作されるが、固定化することで一機に多くの武装を併用できるというメリットがある。その弊害として火器管制が複雑化してしまうことが挙げられるが、ベテランパイロットが多いジオン軍残党においては大きな問題ではなかった。大きな推進力を持つリック・ドムには、その分大量の武装を搭載することができるため、残党軍ではメンテナンスが複雑なビーム兵器ではなく、信頼性の高いミサイルやバズーカなどの作戦式の火器をリック・ドムの武装として使用していた。



機体名: MS-09R

リック・ドム改修型 各種ディテール



各ロケットに搭載されたミサイルが爆発を起す。リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。

リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。

リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。

リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。

リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。

リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。

リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。

リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。

リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。

リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。リック・ドムは、機密散布が無敵に入っている。



MS-14 ゲルググ[シュトゥツァー]

機体名称 MS-14 ゲルググ・シュトゥツァー
所属 ジオン公国軍機
パイロット カザク・ラーゾン大尉
開発 ジオン公国軍機 暗黒密基地
武蔵・ウィン・ユニット・ワイヤー・カッター
ビーム・ライフル・シールド

ゲルググ・シュトゥツァーは高機動化するティターンズのMSに対抗するため開発されたゲルググの強化カスタム機である。ゲルググ・シュトゥツァーの改造は主に推力の増強に主眼が置かれており、大きく盛り上がった両肩の追加パーツは上半身にすっぽり被せたような状態で取り付けられ、ランドセルも別パーツに接続されている。追加されたパーツには補助スラスターと推進剤も内蔵されているためゲルググ・シュトゥツァーは通常のゲルググを大きく上回る機動性を有している。機体背部にはこの部隊の独自装備であるウィン・ユニットと呼ばれる有線誘導式の遠隔操作アームが取り付けられており、ゲリラ戦法の本拠となっている。



ジオン機動隊の勢力は衰えている。かつて艦隊行動を取ることが多かったサンバルだが、今は単独で運用するしかない。王座室のような味方は望みくもない。ゲリラ戦を挑む手が無い。ゲリラ戦は心身ともに疲れる。常に死に臨み合わせ、だが、戦わなければならない。ティターンズのジオン機動隊は、日増しに厳しくなっている。目の前では二機のモビルスーツの戦いが行われていた。リック・ドムとゲルググの改造型だ。双方の機体にはウィン・ユニットが装備されている。

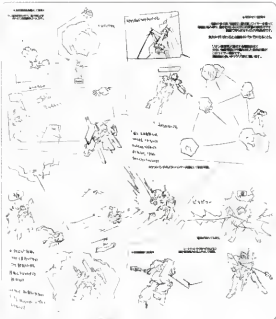
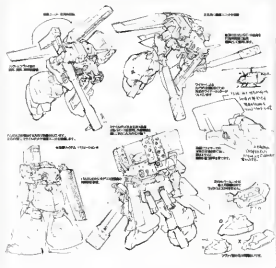
ゲリラ戦を強く意識した装備だ。

ソロモン。また、ここに戻ってきた。ガブリエルはリック・ドムとゲルググを見上げながら思った。かつてここはアハベル・ガトーとともに戦った。今では、ガトーのことが話れることも少なくなっている。

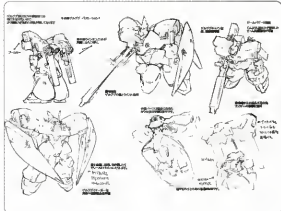
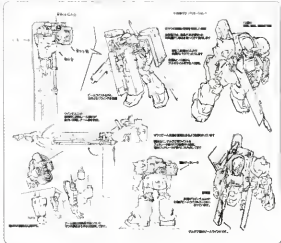
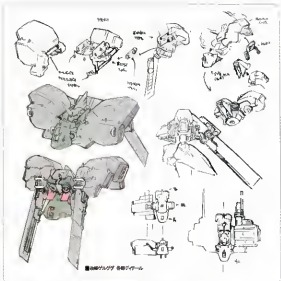
ソロモンの渡戦の後、一年戦争の最終局面で、ガトーはデラーズと行動を共にすることになった。デラーズは命を預けたのだ。

2000年1月1日、1300E 13より進行

シオン機殻性において増量率の増強。特にMSの増強は寛大の面積であり、生産能力を誇らない様にとつて現状保有するMSのみの増強は機殻の能力であると思われ、しかし、その増強を対応するファイティングズは次々と新型兵器を前線に投入しており、真・實ともに戦力の差は開く一方であった。この状況を打開するため、シオン機殻性では独自の改造を施し、MSの増強能力を行う増強も多かった。そうしたカスタム機体のひとつがこのシュートアップシリーズである。この増強シオン機殻性が使用したカスタム機体の運用データは水面下で情報収集され、アジア大陸でも新型MSの増強に活用された。



有馬民海によりアームパーツを創出する通称「ワインチ・ユニット」は、ニュータイプではない一般のパイロットでも使える兵器である。ワイヤーで記憶を刻みつけて自由を奪ったり、黒石に身を潜めて死闘からバックでスタート・グレネードを敵艦の背後へ投下したりと、高度空間でのゲリラ戦法に優れた兵器となっている。





RX-121-1 ガンダム TR-1〔ヘイズル改〕

機体名称「RX-121-1 ガンダムTR-1〔ヘイズル改〕」

所属 地球連邦軍 ティターンズ・テスト・チーム

パイロット 小隊

パイロット ウェス・マフイー大尉

開発 地球連邦軍・コンバイトウMS工場

武装 ビーム・サーベル/多目的ランチャー/ビーム・ライフル/シールド

ヘイズル改は、ジオン軍残党との戦闘で大破したマフイー隊長のヘイズルを、コンバイトウに配備されていたジム・クゥエルと、アスワンにストックされていたヘイズル用の予備パーツで修理・改修した機体である。このヘイズル改には、初代ヘイズルで蓄積された実戦データと機体開発のノウハウが盛り込まれており、機体各部の強化パーツは、内部構造や他のパーツとのバランスが再検討され、MSとしての完成度が高められている。その結果、外観はより統一感の取れたフォルムとなり、軽量化やスラスターの出力強化によって推進力は約10%ほど向上している。先だって、エアリアルが乗るヘイズル2号機に「RX-121-2」のナンバリングが与えられたことから、この修復を機にヘイズルの型式番号も「RX-121」から「RX-121-1」へと移行されている。



モビルスーツ 全高 17.0m

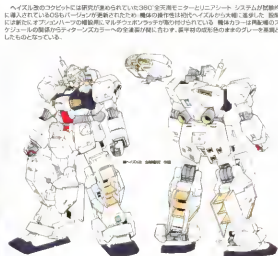


モビルスーツ 全高 17.0m

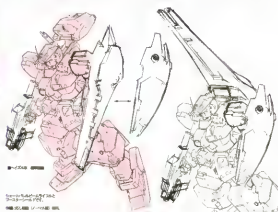
モビルスーツ 全高 17.0m



モビルスーツ 全高 17.0m



モビルスーツ 全高 17.0m



モビルスーツ 全高 17.0m

「マフラー小隊長の肩が聞こえてきた。『この全無味なたいまにミスターも、僕れは偉いやすいだろ。たか、今は、埋で手印に放り出されたような気分だ』」

全無味なミスターとミスターは開発されたばかりで、アスラン配備機で装備されたのは、モビルスーツの世代が変わろうとしているのを示している。一年戦争時代のモビルスーツから、テクノロジイはどんどん進歩している。

変形するアスランは、その最たるものだ。ティターンズのミスター小隊長と、その最新のテクノロジイに真っ先に触れることが出来る。

新しい技術や新兵態が常に安全とは限らない。テストパイロットは、危険と背中合わせで最先端のモビルスーツを駆るのだ。エアルドはそれを誇りに感じている。

アスランに接触すると、すぐにオーディーが現れた。

「隊長、新しいOの肩はどうでした？」

エアルドは苦笑した。オーディーもケル同様、興味津々らしい。マフラーはまたまた「安定している。機体にもマシしている。戦闘データも累積が追加している。データベースからの参照時間も短縮されているように感じた。」

マフラー小隊長の肩が聞こえてきた



RX-121-1 ガンダム TR-1[ヘイズル改]

機体名称:RX-121-1 ガンダムTR-1[ヘイズル改] サブ・アーム・ユニット装備

所属:地球連邦軍 ティターンズ・テスト・チーム

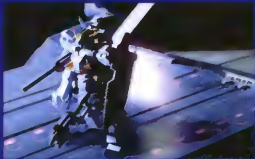
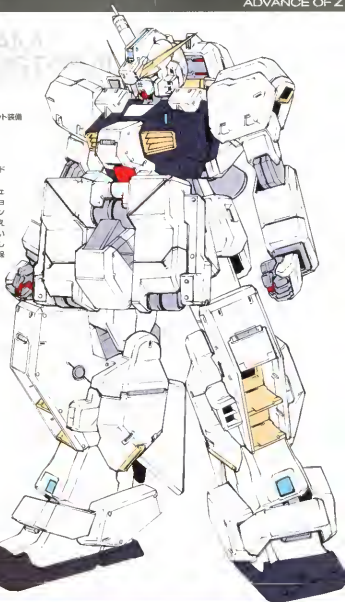
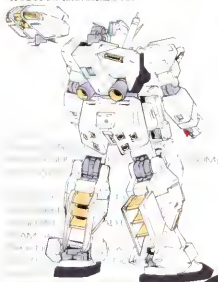
プラックオター小隊

パイロット:ウェス・マーフィ・大尉

開発:地球連邦軍・コンベイトMS工廠

武装:ビーム・サーベル 多目的ランチャー/ビーム・ライフル/シールド

ガンダムTR-1の股間のセンターアーマーに新設されたマルチウェポンラッチは、TR-1が装備する様々なオプションパーツ用の多目的ジョイントとして設計されている。サブ・アーム・ユニットはマルチウェポンラッチに接続される予定の装備のひとつで、一見増設装甲の様に見えるスカートアーマーの内側にサブ・アームが折りたたまれ収納されている。このサブ・アームは、TR-1がシールド・ブースターを両手に装備してメイン・アームが重がっている際にもビーム・ライフル等の武装を保持できるように考案された装備である。



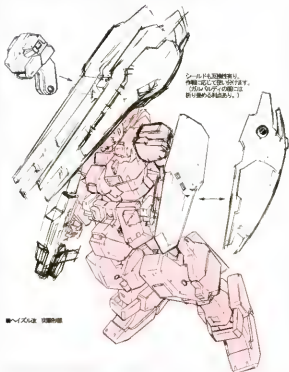
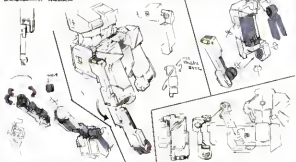
MSV-002 GUNDAM TR-1 (Hazeul) 仕様

「サブ・アーム・ユニットだろ？」
「カルがスエカフのビートに言ったエリア
なドとか一はモビタイツアキに上げて、新た
な装備を装備したイザルを上げていた。
「そうだよ」
「ビートがこたえる。『期がもう2本あれば
便利だろう。シールドを機体も同時に繋ぐ
ぞ』
「あはか」
「カルが言う。『どうやって同時に』系統
のミビレレーザを使うんだ？ システム大
無理だろう」
「今回の事故では、ヘイズルの胸とサブ・ア
ーム・ユニットのバイスドランパを切り替えて
使うコングリッド」入のバイスドランパが振り込
めは両方のアーム・ユニットを同時に使えるか
もしないといけない」
「実際の戦闘でそんな悠長なことはやってら
れない」
「エンジンではそんなことを考えないの。とに
かく可能なテクノロジーなんなん形にし
ちゃう。それを役に立つかどうか試すのがお
たへの仕事だろう」

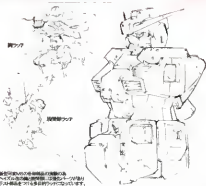
改造されたガンダムTR-1は、各種実験用装備のテスト母体となるべくマルチファンクショナルをはじめとしたオプションパーツの搭載のハードおよびソフトウェアでのインターフェイスが整えられた。これによりハイスルは、通常であれば機体OSの書き換えが必要になるような大規模なオプションパーツの機体にも容易に対応できるようになり、テスト母体として一機多くのオプションパーツを装備・実験し、行くことになる。



機体構造のチェック 機体改造図



機体改造図 機体改造図





RX-121-2

ガンダム TR-1[ヘイズル2号機]

機体名称:RX-121-2 ガンダムTR-1[ヘイズル2号機]

所属:地球連邦軍 ティターンズ・テストチーム

パイロット:ブラックオスター小隊

パイロット:エリアルド・ハンター中尉

開発:地球連邦軍・コンベイトMS工廠

武装:ビーム・サーベル

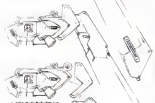
ジム・ライフル

シールド

ジオン軍残党との戦績により中破したジム改高機動型に代わり、エリアルドが継承する機体。これまでガンダムTR-1[ヘイズル]のパーツ交換用の予備機としてアスウィンに配備されていた機体であったが、トライ・ブースター・ユニットの新機を機に実戦配備機として軍のデータベースに再登録が行われた。これにより[ヘイズル]と同系列の機体として「RX-121-2」の型式番号と「ガンダム」の名称が与えられることとなった。通常、このような機体の再登録には複雑な手続きと多くの時間が必要となるのだが、ティターンズの持つ軍内部での権限の高さから、この短時間での再登録を可能とした。この異例とも言える型式番号の再登録については、パイロットを務めるエリアルドの強い要望があったようである。



●TR-1 頭部

ヘイズルの腕の辺りに
カマフラージュが施されています。●TR-1の
スラスターユニット
は、フレームに
取り付けられています。

TR-1 標準機

このジム・クワールはガンダムTR-1「ヘイズル」のパーツ交換用の予備機として、アスランに配備されていた機体である。機体がヘイズル用のガンダムタイプに換装されているのみで、胴体部分には通常のジム・クワールと全く同じものである。本来実戦への投入は予定されていなかったが、続々と戦線へ機体搬送が下された「オー・ドリ」の迎撃に、トライ・ブラスターユニットの試験を兼ね、エアリアルが搭乗することになった。この機体は後にRX-121-2ガンダムTR-1「ヘイズル」の母機として再登場される。

TR-1 ユニバーサル

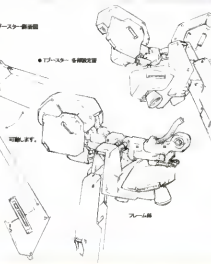
2つのユニバーサル・スラスターと中央の巨大なジョイント・ブラスターで構成される推進系ユニット。ユニバーサル・スラスターとバックハックをつなぐフレームにより、推力方向の自在なコントロールが可能となっている。この様な可変フレームの技術の蓄積が、後にムーバブルフレームを生み出す礎となる。



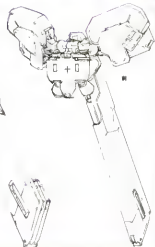
●TR-1 頭部

ヘイズルの腕の辺りに
カマフラージュが施されています。

●TR-1 各種設定



フレーム



「瞬、ヘイズルが母機を見失った。オー・ドリはモーターを起動する。突然、正面に現れたヘイズルの母機。そのモーターノイズを見た瞬間、冷静さが吹き飛んだ。」

ガンダムの頭。

それは、味方であるオー・ドリにすら精神的なダメージをもたらした。ガンダムにはかない。その思いが一年戦争以降の連邦軍士官には無意識のうちに刷り込まれているのかも知れない。

「く……」

オー・ドリはスラスターを噴かせた。激しいGに耐え、ブラクラアウト寸前だ。

だがヘイズルが母機の機動力は、はるかにその動きを越えていた。

「エアリアル中尉機、機体ビーム・ライフルの直撃だにアスランから入電する。『本日、状況終了』」

オー・ドリはコクピットのシートを聞いた。

ヘイズルが母機はジム・クワールなんかじゃなかった。彼女は思った。

間違いない。それはガンダムだ。

(父機を失った。ヘイズルは母機を失った。)

RX-107 TR-4 [ダンディライアン]

機体名称 RX-107 TR-4 [ダンディライアン] モビルアーマー形態

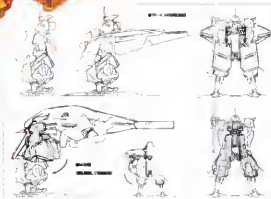
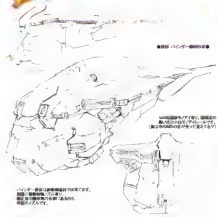
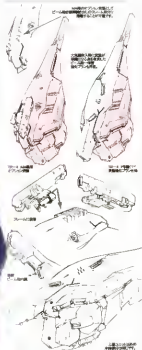
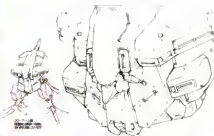
所属 地球連邦軍 ティターンズ・テスト・チーム

パイロット 小隊

パイロット カール・マツシバ中尉

開発 地球連邦軍・コンバイトWS工廠

大気圏突入用モジュールとして開発されたTR-4[ダンディライアン]は、大気圏突入形態→MA形態→MS形態と状況に合わせて3つの形態への形状移行(Form Shift)を行うことができる。この内、MA形態は宇宙空間や空中での高機動戦闘用の形態で、格闘戦およびAMBAC用のクロー・アームを展開した姿は旧ジオン軍のMA-05ビグロを彷彿とさせる。大気圏突入形態では飛行能力を持った降下ポッドの域を出ないが、MA形態へと形状移行することで機体の特性は画期的に変化し、より戦闘志向な兵器となる。



RX-107

TR-4

[ダンディライアン]

機体名称「RX-107 TR-4

[ダンディライアン] MS形態

所属 地球連邦軍

ディターンズ・テスト・チーム

ブラックオター小队

パイロット カール・マツバラ中尉

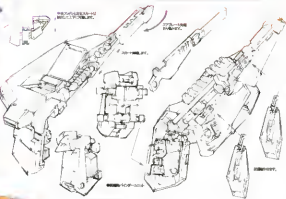
開発 地球連邦軍・コンバットMS工場

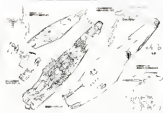
武装 ロングレンジ・ビーム・ライフル

シールド

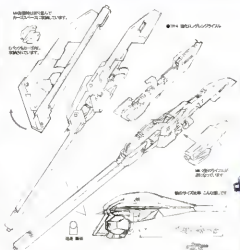


TR-4[ダンディライアン]のMS形態。MS形態とは違って、コアMSの上半身がむき出しとなり、TR-4の大気圏突入モジュール自体はその下半身として「はかっている」状態になる。主に地上での戦闘を想定した形態で、その大気圏を突破するためMA形態時にはクロー・アームとして機能していた部分が補助パーツとして脚部ユニットを形成する。脚はあるものの歩行にはあまり向いておらず、大機力を活かしたホバード行やスラスタージャンプによる空中戦などの戦法のほうが有効なようだ。





TR-4(ガンディオン)は、大気圏突入形態(飛行形態)→MA形態→MS形態とさまざまな形態に変化するが、これはいわゆる「可変(Transfrom)」ではなく、大気圏突入という一連の状況変化に合わせて「形態移行(From Shift)」(別の形状に直すことをあまり考えたくない)の概念で設計されている。そのため大気圏突入時に平置となったパーツは分解・組み立てることも可能で、簡易的にはコグヒット・ブロックとして内蔵されているコアMSの形を直し、すべてが(パーツが)壊してしまうこともできた。



「ひとくちやられてはいるように見える」と、エスパーはカールに無言で呼びかけたの、ふりしれたカールの声が響いてくる。「なに、カールをやられたにだけえ」。カールはくたたくに疲れ果てているに違いない。今も昔も大気圏突入の態勢はそれはない。変わりはなく、それはパイロットの神経をすり減らす。無事大気圏突入を果たしたと思ったら、すぐに戦闘だ。これではいかん。神経が多すぎてもない。

誰の故に、ガンディオンの性能だろう。カールは「無礼」と言えたが、その途中こそが完全に大気圏突入をやり返せるための重要な準備なのだ。ガンディオンは新機と性能への信頼感が、多少なりともカールへの負担を減らしていることにはたしかだろう。

ガンディオンについての予備知識は何もなかった。テスト機は常に前線の軍事機密なのだ。

MOONLIGHT DREAMS (4/15)



RX-107

機体名称 RX-107

所属 地球連邦軍 ティターンズ・テストチーム

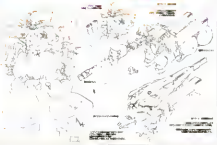
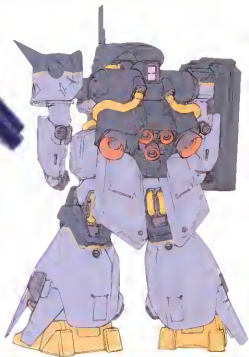
プラックオスター小隊

パイロット・カー・ル・マツバラ中尉

開発 アナハイム・エレクトロニクス/コンベイトウMS工機

武装 可動式シールド/ビーム・ライフル

RX-107は、アナハイム・エレクトロニクス社（以下、AE社）がRMS-106ハイザックの後継機として開発した試作MSである。ハイザックはコストパフォーマンスを追求した量産機であったが、このRX-107はより高い水準の性能を目指した機体で、すべての面においてハイザックを凌駕するスペックを持っていた。評価試験用として連邦軍に納入されたが、そのスペックの高さをティターンズに見初められ、TR-4のコアMSとして採用された。ハイザックから受け継がれているAE社のジオン系デザインにより、左肩にスパイクアーマー、右肩にシールド、メインカメラはモノアイといったジオン系MSを連想させるシルエットになっている。



左肩のスパイクアーマーは試験機における機体の足跡として装備されているが、この機体においてMS同士による必要距離での格闘戦は稀に少なくなっており、すでにデザイン的には新機とされていた。



「アサギ」のモビルスーツは、この機体で初めて登場した。

「カール機は、軽弾したパイプダーの推力を利用してどうもデザンヤンしていた。ミサイルがさきでこの機に当たった。それが本機の装甲なのか、オプションの装甲なのか、エリアルドにはわからない。グディリアアンの機体を知りたいのだ。」

「これで最後だ。」

「カールが言った。その言葉どおり、カール機が撃ったラウル機のビームが機体のドングリを撃ち抜いた。空中でドラッグ機降る。」

「無知したカール機は、その場で破壊されたパイプダー機に倒した。」

「さきには、まったく新しいモビルスーツが立っていた。テタリスズ・カールに破壊されていく。」

「それはモビルスーツだ。だが。」

「エリアルドは言った。カールの機体が遠くへ。」

「おまえが乗っているのと同じ。新しい時代のモビルスーツだ。」

「エリアルドは空中からしばしばその姿を眺めていた。周囲には、戦いながら排除したガンダムの残骸が散らばっていた。」

RMS-117 ガルバルディβ高機動型

機体名称: RMS-117 ガルバルディβ

所属: 地球連邦軍 ティターンズ・テスト・チーム

パイロット: マキシム・グラー大尉

開発: ルナツーMS工場

武装: ブースター・ボンド/ビーム・ライフル、神威式シールド

ガルバルディβは、一年戦争末期にジオン公国軍が開発していた当時の最新鋭機MS-17ガルバルディを、戦後連邦軍が接收して改修を施し完成させたMSである。コクピットのリニアシート化を始め、OSなども更新の仕様で換装されているほか、外装が全面的に改装されたことにより機体の軽量化が図られている。これらの数々の近代化改修によりU.C.0086年現在でも第一線で使用されている。機体の生産は連邦軍の宇宙軍地ルナツーで行われており、その多くがルナツー駐留部隊を中心とした宇宙軍戦の部隊に配備されている。



「ガルバルディβ……」
 カルが、ヘスラのビートに言った。「RMS-117、ルナツーで開発された連邦軍の局地専用の高機動機じゃない」
 「そうだよ」
 「なんてそんな機体がアスファルトで走ってるんだ？」
 「機体バリエーションがアスファルトで走ろうだ」
 カリーの腕にいたエリアルとは思わずビートに尋ねた。
 「機体バリエーションでいい」
 「高機動化のために、ブースターなんかをつけたらポイントが読めなくなるだろ」
 「具体的に言うなら……」
 「ヘスラのバリエーションがあるだろう。あれなんかを」蓋印付けけるで聞いてるぞ」
 「へ……」
 (Reference: ADVANCE OF Z THE FLAG OF TEARS 4巻 107頁)

ORX-005 ギャブランTR-5 [ファイバー]

機体名称 ORX-005 ギャブランTR-5 [ファイバー]

所属 地球連邦軍 ティターンズ・テスト・チーム

パイロット

開発 オークランド研究所

武器 拡散ビーム砲

フィールド・ジェネレーター

新型爆弾

TITANS TEST TEAM

ORX-005 GABLAN TR-5 (FIBER)

(1/1)

ORX-005 GABLAN TR-5 (FIBER)

ORX-005 GABLAN TR-5 (FIBER)

ORX-005 GABLAN TR-5 (FIBER)

ORX-005 GABLAN TR-5 (FIBER)

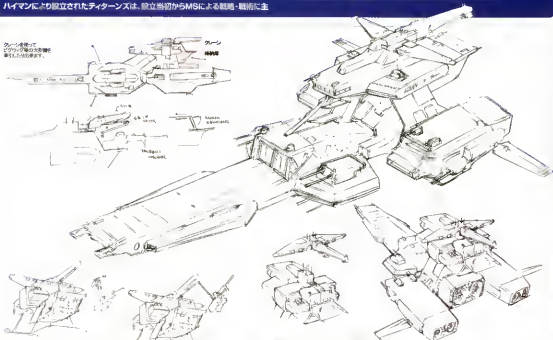
ギャブランは北米のオークランドにあるニュータイプ研究所で開発された高高度迎撃用の可変MAである。TR-5 [ファイバー]は、そのギャブランをベース機として同機が持つ機体コンセプトをさらに限定した「弾道軌道による超音速迎撃」に特化した機体として開発された。弾道軌道とは地上から発進して一旦大気層を暴風。大気層に再突入後、引力の作用によって得られる強大な加速を保持したまま目標地点へと侵襲する放物線軌道のことである。再突入後は基本的に迎撃不可能な速度にまで加速するため、侵襲を阻止する手段はない。ICBM (大陸間弾道ミサイル) はそのまま目標地点で爆発するが、機動兵器であるTR-5 [ファイバー]は目標侵襲後により精密でピンポイントな破壊行動を行うことができるのである。

ティターンズの艦船

時代錯誤の大艦巨砲主義を唱導する類の古い考えが多い地球連邦軍では、いまだにMSを戦闘する傾向にあり、MSの運用が前提とされるようなMS母艦タイプの艦船もベガス級以降、長らく作られることがなかった。U.C.0084年にジャミトフ・ハイマンにより設立されたティターンズは、設立当初からMSによる戦術・戦前に主

眼を置いた部隊編成を行っており、艦船もMS搭載能力を持ったアレキサンドリア級宇宙巡洋艦などを主力艦として使用していた。ティターンズの艦船と密接にリンクしたMS運用法は、後の連邦軍にも大きな影響を与えることになる。

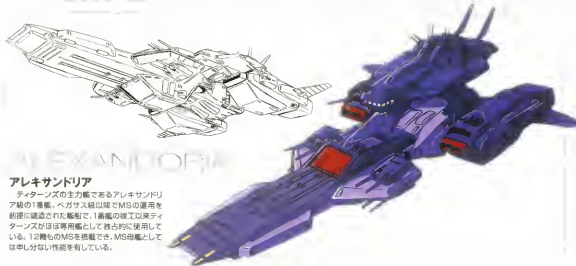
クレーンを使って
2000t級の大型機材
搬入・搬出が可能です。



アスワン

アレキサンドリア級宇宙巡洋艦、T3部隊の母艦として運用されている艦で、エアリアルドマーフィーたちのブラックオター小隊もこの艦の配備である。アレキサンドリア級はMS母艦として高いMS搭載・運用能力を持っており、MSのテスト部隊であるT3部隊へと次々に搬入される新型機を充分にストックできるだけのMSデッキスペースを有していた。アスワンの艦長は、T3部隊の司令官を兼任するotto・ペダルセン大佐。

実験部隊の機体200t
級、実験用専用機の特長が
確認されています。



アレキサンドリア

ティターンズの主力艦であるアレキサンドリア級の1艦。ベガス級以降でMSの運用を前提に建造された艦船で、1番艦の竣工以来ティターンズが母艦専用艦として独占的に使用している。12機ものMSを搭載でき、MS母艦としては申し分ない性能を有している。



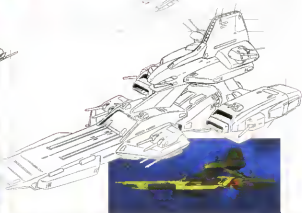
ドgos・ギア

アレキサンドリアに代わるティターンズの旗艦。グリプスにおいて建造された大型艦で、複数のMSカタパルトと20機以上のMS運用能力を有している。当時の連邦軍では最大級の艦船であり、この艦を建造・運用できることからティターンズの連邦軍内部での権限の大きさが推察できる。



ロンバルディア

MS搭載能力などが強化されたが、MS母艦に特化した設計となったため火砲などの武装は大幅に削減されている。ドgos・ギアの唐館艦としてグリプス戦役に参加している。



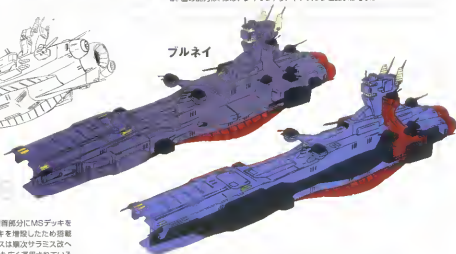
ハリオ

アレキサンドリア級の宇宙巡洋艦。アレキサンドリア級は同型艦でも各艦ごとに艦橋の形状が異なっており、このハリオも目視で一見して艦を判別することができる。艦の能力は、ほぼアレキサンドリアやアスワンと違いはない。



サラミス改

サラミス級軽巡洋艦を改修して艦橋部分にMSデッキを増設した改造艦。本来ないMSデッキを増設したため搭載機数は3機と少ない。旧型のサラミスは単次サラミス改へと改修され、連邦軍やティターンズでも広く運用されている。



ブルネイ

キャラクター

ティターンズ・ テスト・チーム (T3)

ティターンズに配備される予定の新型機や実験機を実戦で運用評価するために編成されたMS実験小隊。母艦はアレキサンダーアーク宇宙巡洋艦アスワン。マーフィー隊もしくはブラック・オター小隊と呼ばれている。



ウェス・ マーフィー

マーフィー隊の小隊長。一年戦争のソロモン攻勢戦で初陣を飾り、「デラース紛争」などでも活躍した歴戦の勇者。

搭乗機 ヘイズル、ヘイズル改、キハール、ハイザック(先行量産型)



オードリー・エブリル

マーフィー小隊の紅一点。MSパイロットではあるが、テスト・チームでは基本的にオペレーターを務めている。

搭乗機 ジム・スナイパーII、ビッグウイング

エリアルド・ハンター

本編の主人公。理想に燃えてティターンズを志願した青年士官。本人には自覚がないが、優秀なパイロットである。グリアス戦役後、ある事件により、軍事裁判にかけられることになる。

搭乗機 ジム改電機動型、キハール、ヘイズル2号機



カール・マンツバラ

エリアルドと同期にティターンズに入ったライバルであり、よき友人。小隊のムードメーカーである。日系のハーフ。

搭乗機 ヘイズル、ヘイズル2号機



ジオン残党軍

一年戦争後もクワラ化して戦闘を続けていたジオン公国軍の残党。特に地球至上主義を掲げるジャミトフとバスクの創設したティターンズには繰り返し攻撃を仕掛けていた。

ガブリエル・ゾラ

元ジオン公国軍大尉。ソロモン攻防戦などを戦った財金入りのMS乗り。

搭乗機 リック・ドム改造型。

**カザック・ラーソン**

元ジオン公国軍大尉。一年戦争からゾラの戦友として戦ってきた。

搭乗機 ギルグ改造型。

**オートー・ペデルセン大佐**

T3の所属するコンベイト方面軍の司令官。たたき上げの実直な軍人で、バスク・オムのやり方に反感を持っている。

**コンラッド・モリス少佐**

連邦軍法務局所属の法務官。軍事法廷でエリアルドの弁護士を務めることになる。



U.C.0087.3.2「グリップス戦役～ガンダム強奪事件～」



グリプス戦役とティターンズVS.エウーゴ

00年3月6日、サイド・バーンズは「リノア」でオーストラリアを行っていた。チャターンズの試作機RX-178ガンダムを奪取されたことが世に知られたガンダム強奪事件である。この出来事をきっかけに突如として「リノア」はこの格闘型軍事行動へと変化した。遂に「グリプス戦役」と呼ばれる一連の紛争が開始される。

財政が拮据すると、現状の地味な状況は、
競争に勝つことが出来ず、強大な権力で連邦軍を掌
さす形となった。強大な権力で連邦軍を掌
さしていると思われたいタイタンであったが、
「コロロ」の口癖によってその存在は連邦
軍内部で浮いた存在となっていた。確信こそ有
じているがおおむね連邦軍の一般部隊はティ
タンスに対して非協力的であり、ティタイン
自身も現地配備する連邦軍部隊以外には
自らの面識部隊でエリートとの戦闘に当たら
ないという方針を打ち出していた。

[illegible]

2015年10月1日

「シムト・グラー」とは雑誌で付録者の愛用者。オス軍残党が独自に改造を施したMSの別称。「ゲルググ・シムト・グラー」のように機体名の後に付けて呼ばれる。ワイン・デュ・ニートなど独自開発した武器を装備している。



ダンテ・ライオン ■ たんでいりあん
RX-100/T-04の機体変持。ダンテ・ライオンはMSの大気圏突入用エンジェルとして開発された機体で、大気圏突入形態、MA形態、MS形態などさまざまな形態への形状移行によって大気圏突入という一連の状況に柔軟に対応できるポテンシャルを持っていた。

TRIMとは、第3部隊の機体テストにおける「トライム」を指している。つまり、TRIM（ペイロード）は「搭載量」を表している。つまり、TRIM（ペイロード）は「搭載量」を表している。

T3部隊 闇でいっすりひたひたのテイタリス・テストチームの総格。→「テイタリス・テストチーム」参照

タイタースズ 書いていた人です
 U.C.0083年12月に「地球至上主義」を唱えるジャミトフ・ハイマン准将(当時)の提議により結成されたジオ軍の残党狩りと地球圏の治安維持を目的とした連邦軍の特殊部隊「エリート

部隊として士官クラスの随員はすべてアースノイドで構成され、同属種でも一般の連判軍士官より一級以上の格段を与えられていた。部隊で使用するMSの多くは、「タイタンズカラー」と呼ばれる濃紺の塗装が施されていた。

テーズと「G」
ディーズは、近次世代、確固たるため、試作機の運用試験とテーズと取組む目的に組織された部隊。実験アーク取集のための、作戦行動に参加し戦闘任務を行うことも多い。マフィア・小隊もこの部隊の一つである。師団は「13部隊」。

ハイザック(先行量産型)圖はいざつせんこ
ろりまさんかた
YRMS106ハイザック先行量産型。Yフィ
小銃に配備された次期標準型のテスト用先行
型。コクビトはリボルバーではなく従来の弾

ハルツォーグ^{ハルツォーグ}は、つゝもぢ
アルカ中東部にある津軽重の地、基地、キハ
ル重力下仕様のテスト用のヘース基地として使
用された。

ビート・シエルトン^{ビート・シエルトン}は、ひとしえるとん
ハンドリックの下で働くメカニック。若手メカニック

くわも目置いている。主にマッフィー小隊のMSを導導と担当している。

ビルヂカルド・ヌルツルエー少尉副ひてかゝることを企てし。まづ、
エウオン公国軍、キルマイヤー小隊所屬のMSバ
イロント・サイド、25バヤチにアスワンが寄着し
た際、ハイスの機客ミッドルへMSをよこし、ヨ二
一内の連邦軍基地を襲撃するが、エリカルドと出
会い、(ミッドル版AOZに登場)

マーフィー隊長が指揮をとる小隊の正式名称。精進はオランダ版席のウサギ「ネザーランドドワーフ」種の色の種類「ブルーオター」(黒に部オレンジ)「がらさける。ウサギ好きのマーフィー隊長が名付けた。→「マーフィー小隊」

↑X-12がダムド・D-1の機体変換。
↑カ
↑X-12がダムド・D-1の機体変換。
↑カ

ハイスル改 へいするかい
R×Sルがジオンとネオジオンとの戦闘で大破したため修理改修が施され生まれ変わったハイスルの新しき型。型式番号も「R×S-1」から「R×S-2」へと改められていて、機体は塗装が間に合わず、構造材の成形色であるブルーのままでとな

「ハイスルは強靱な形態へいするきょうじゅうけい
 シールドフースターを真鍮に炭化したガンダム
 T・H・ハイスルの新開発機。攻守ともにバラン
 スの取れた最もポピュラーな形態である。
 ハイスルは強靱な形態へいするきょうじゅうけい
 シールドフースターを真鍮に炭化したガンダム
 T・H・ハイスルの新開発機。攻守ともにバラン
 スの取れた最もポピュラーな形態である。」

機動形態、M A 並みの大推力を得ることができ、別名「最終形態」とも呼ばれている。



どを取付け、正式に「ヘイスル2」機として実戦配備した機体。エリアルドの乗機となる。

「ヘイスルフルアーマー」形態へいするふるあーまーけいたい
機体正面に増加装甲を取り付けた防衛力重視

が困難になるという欠点がある。

ヘンドリック・ホス（ヘンドリック）は、アスワンの警備主任で、昔力タキの頑固なメカワック。テスター・メカテストチームのメカワックを任されるだけに、その知識と警備の断は、絶品である。

マーフィー大尉が指揮を執るティターンズのテストチームの格好。正式名称は「ブラシクオター・小隊」。『ブラシクオター』参照。

ラビットマーク ■らびつとまーく
その外見からは想像できないがマーフィー隊長は
大のウサギ好きであり、そのためにマーフィー小
隊の部隊章やバニーマルマークはウサギにちなん
だものになっている。

連邦憲法法院が認めれば、くわんぽんもさよく
連邦軍の一機関、軍事裁判など軍内留の法的な
業務を取りは切る。コンラッド・キリス少佐が所
属している機関である。U.C.0088年当時の
責任者は、エディー・サウスウェルだ。



ADVANCE OF Z OFFICIAL ART BOOK

Vol.0

アヴァンス・オブ・Z 設定資料集





HOBBY

2005年10月号別冊付録

編集 電撃ホビーマガジン編集部

編集協力 民間天竺 アーク

協力 株式会社サンライズ

装幀 木立平デザイン CREATIVE STATION BEE-PEE

イラスト 藤田健爾 (大月) 監修 森谷(キヤウ) 山口裕子

印刷 凸版印刷株式会社

発行人 後藤博幸

編集人 佐藤正博

© 劇場アニメーション サンライズ